

平成30年7月豪雨被災事業所

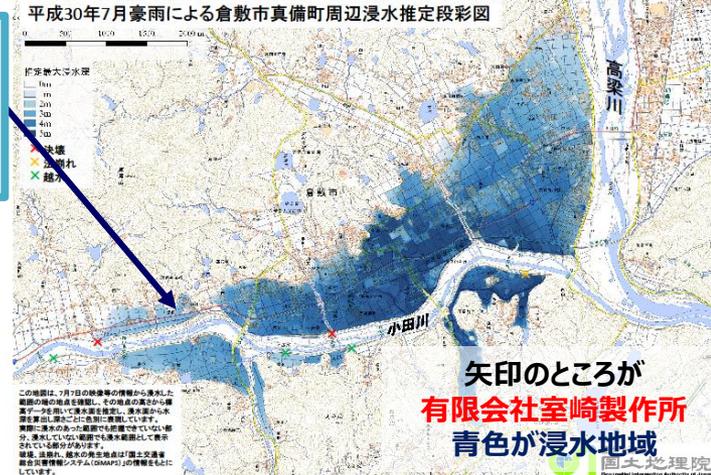
有限会社室崎製作所 (3月7日訪問)

【所在地】岡山県倉敷市真備町尾崎159 【雇用保険被保険者数】6名

【事業内容】船舶・諸機械木型、FRP成型用木型の製造販売

【資本金】300万 【代表者】代表取締役社長 門川新界

「有限会社室崎製作所」は、工場の2階まで浸水したことで、機械や製品、OA機器など、製造ラインに必要な大部分が被害を受けました。従業員の努力や取引先からの協力により、現在は被災以前の状態にまで復旧されています。被災直後の状況や、現在までの復旧に向けた取組について、門川社長にお話を伺いました。



被災状況は？

7月7日深夜、数人で完成していた製品などをクレーンで2階に避難させたものの、浸水被害は2階まで及んだため、結果として工場の製品などはいずれも被害を免れることはできなかった。

木型の材料は集成材が多く、水を含んだのち乾いたものはバラバラになってしまっており、製品・道具などは全て廃棄した。買ったばかりで未開封のまま、捨てることとなった材料もいくつかあった。また、機械類は使用できなくなり、修理又は中古の購入となった。

2階に置いていたパソコンも被害を受け、木型作成のために必要な3Dデータも取り出せなくなっていた。

従業員の被災は？

社長・会長を含めた4人が被災した。7-9月の3か月間は休業状態となり、従業員に対しては、激甚災害法の雇用保険の特例による支給(6割程度)と合わせて月収が通常の8割程度になるように見舞金を支払った。6月末までの売上げにより、なんとか従業員への支払いができた。

機械類が揃ったのは11月で、10月から従業員に通常通り働いてもらった。10月中は11月の稼働開始に向けた準備期間のため、売り上げはほとんどなかったが、給与は通常通り支給した。

被災前後で雇用者の増減はなし。

被災からこれまでの道のり

事業継続を決断した一番の理由は、従業員がいるから。また、遠くは福井など県外を含む6社の取引先が片付けのための応援に来てくれ、「待ってるから」「うちの製品は室崎さんじゃないと頼めないから」との言葉をかけてもらったことで、「頑張らなくてはいけない」と考えた。

現在は被災以前の状態に復旧している。年明けから通常通りの管理体制に戻ったが、三角定規など手作業で用意している道具が揃っておらず、それらを作り直す工程が増えたことで作業に時間がかかる状況が続いた。

有限会社室崎製作所を訪問して

「人が喜んでくれるものを作ろう。そのために頑張ろう。そうすれば、仕事は入ってくるから。」

これは、室崎製作所が以前より大切にされている考えです。被災を受け、改めてこの気持ちを忘れないようにしたいと、従業員に伝えられたそうです。

「取引先の温かい支援に対し、どうしてこんなにしてくれるのだろうと頭の下がる思いでした」と話された門川社長。人が喜ぶものをとの考えを大切に、取引先と強い信頼関係を築かれてきたこと、そして従来からの木型に加えFRP成型用の木型に力を入れ、同業他社と差別化を図るべく企業努力を重ねた結果なのでしょう。

